

ゆたかな労働と 生活の場をめざして

発行 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ
だより
No. 485

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地 小平元気村おがわ東 1 階	TEL 042-345-1741
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0305
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



藍染めのあとの洗い、すすぎは力仕事なので交代で洗い続けます。この日に染めた布は手ぬぐいやマスクになりました。

藍染め

あさやけ鷹の台作業所

私は一九八四年四月から日本青年奉仕協会の「一年間ボランティア」として、一九八五年四月から職員として三十五年間とさわ会の事業所で働いてきました。

法人事業での得難い経験(本人を中心に法人の一体感とつながり)

- ・法人の一体感を感じた「あさやけ大運動会」「下請け作業の納期を守るため他事業所職員と夜なべして行った組立作業」「さようざれ署名集めと労働者に連帯しデモ行進に利用者さんと参加したメーデー」など
- ・利用者さんの豊かな暮らしを求めた「自宅までの送迎」「週一回のクラブ活動」「二泊三日の宿泊旅行」「毎月の誕生会」「グループホームづくりの出発点となったチャレンジハウス体験」「やりたいことを実現したポーターナス外出」など

本人の願いを中心に地域と関わるるときわ会らしさを実感

共同ホームはやぶさ 世話人

植木 陽一

ルの舞台に百名以上の障害者と関係者が上がり「本人の声」を市民に届けたこげらコンサート開催しました。そのなかで体の不自由な方の客席へ移動のし辛さ改善の為に段差解消機を設置をすることが出来ました。そして、地域の「こげら合唱団」に発展しています。

- ・市内の障害者事業所の職員と一緒に週末の余暇活動の取り組みとして「働く障害者のつどい」の活動を続けてきました。
- ・廃品回収先の方に、「私はあさやけ作業所最初の職員」と言われたこと。(開所一年目で補助金がないなか福祉訪問員として作業所を支えてくれた方)

- ・あさやけの労働組合員として小平市内の組合団体や関係者と取り組んだ「平和盆踊り」や市民要求実現にむけた取組や福祉関係職場訪問など

私が作業所の利用者さんと一緒に「仕事やあそび」、地域の方々と「共同(協働)の取り組み」で得難い経験を重ねられたのは、とさわ会が地域の障害をもった方々の暮らしにくさの改善を「理念」として制度にない事業を地域関係者と職員で創ってきた事業所だからこそだと感じています。「福祉」や「暮らし」は何かを考え続けてきた三十五年間でした。

- ・地域の障害をもつ子供たちの取り組みでは、利用者さんや家族の協力で作業所を休業とし特別支援学校等の教職員方々や実習の学生さんと一緒に開催した「あさやけサマースクール」がありました。
- ・地域の本人と家族のための事業として、家族の休息も含めた緊急一時保護「いちようの会」の活動
- ・地域での得難い経験(多くの方の力をなければ実現できない)
- ・「障害者週間のつどい実行委員会」で毎回ルネこだいら大ホール

仲間紹介

ひとりひとりが太陽

思い出いっばい

平松 大さん
(あさやけ風の作業所)



作業所ではみんなから「だいさん」と呼ばれています。

大さんがあさやけ風の作業所の利用を始めたのは作業所開設間もない頃でした。他の事業所を経験してからの利用で、大さんは三十代後半になっていました。このとき住んでいた家が作業所の近くだったので作業所までは歩いて通い、帰り道はお母さんと多摩川上水を散歩しながら帰ったこともありました。

大さんは幼いころから歌謡曲のテレビ番組や芸能情報誌が大好きでした。ジュリー、郷ひろみ、岡田奈々、大場久美子などの歌手がお気に入りだったそうですが中でも特別だったのは西城秀樹です。学校の先生と一緒にヒデキのコンサートにも行ったこともあるんです。作業所のCDやチューブでヒデキの曲をかけると気分が乗っているときは曲に合わせて体リズムをとっていました。子どものころに買った雑誌の「明星」は今も宝物です。年数を経てバラバラになってしまいましたが、その紙片に当時の芸能人やプロレスラーや通販の商品を見かけた同世代の職員が「こんなのあったねー!」とか「あーなつかしい」など声を上げるのを見て大さんも当時を思い出していたでしょうか。

作業所では検便の容器を袋に入れる下請けの仕事をやってきました。丁寧な仕事ぶりの大さん、マイペースで着実に取り組んでいました。が時には励まされるとそれに応えてくれたのかせつせと進める姿もありました。

ここまで文末がほぼ過去形になっているのは、今作業所では大さんと会えないからです。四月までは通って来られたのですが、昨年病気をしてから体力が落ち、今は住まいのグループホームでゆっくりと過ごす日々です。このグループホームは、風の作業所に来た翌年に入居しもう十五年近くが経ちます。思えば当時は風の作業所に移って、グループホームに入って、生活が大きく変わった時期でした。慣れるまでは大変なこともあったと想像しますが、そんなときは「リヤングマン 君の行く先に、ヤングマン 楽しめることがあるのだから」と内なるヒデキに支えられていたのかも知れません。

大さん、あまり会えないですが今はどんな毎日ですか。頭の中でヒデキの歌が流れていますか。作業所の私たちにはヒデキに合わせてリズムをとる大さんの笑顔が浮かびます。



A. O



大久保久枝



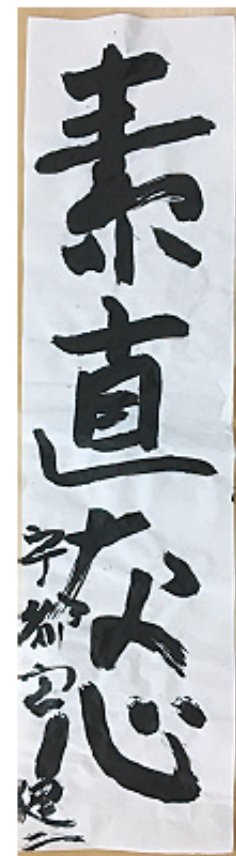
井上シオン



山中武



蟹山陽子



宇都宮健二



あさやけアートフェスティバル2020 サングリーン

サングリーンでは概ね月1回土曜開所で創作活動やレクリエーションを行っています。陶芸、書道、絵手紙、そして最近は何と、マリオネットの製作も♪
普段は仕事にいそしんでいます、ものづくりの機会となるといつもと違う顔。集中して取り組み、ひとりひとりの味わいのある素敵な作品ができあがります。コロナ自粛のため4～6月は活動できませんでしたが、今月から再開予定です。



H. T



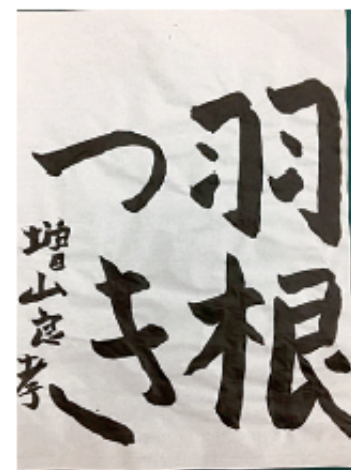
「崖久杉」永倉幹夫



永倉幹夫



黒須佐久



増山良孝



土方孝夫

コロナ自粛期間に自宅で書き上げた作品を持ってきてくれました

新型コロナウイルスの影響により、 支援センターの相談の在り方が変容する？

開所以来22年間、地域生活支援センターあさやけ（以下センター）では“精神に障害のある方の気軽な相談場所・交流の場”として開所を続けてきましたが、コロナ禍の状況により“交流活動”が感染拡大の原因となるために利用の仕方を変えざる負えない状況となりました。

これまでの対応

・4月～6月まで	不要不急の面接のお断り（登録更新期間の延長）
・4月～現在	交流室でのテーブルゲーム・プログラム・室内での食事の中止
・4/18～6/8	交流室の閉鎖
・6/9～現在	交流室に利用時間に制限①12:00～14:45 ②15:00～17:45 ①②のどちらか
・4月～現在	検温、マスクの着用、手洗いの実施、アルコールジェルでの消毒 クリアボードの設置

センターの活動

電話相談は今までと比べて約100件（1か月）ほど増加しました。日々の悩みに加え、コロナのことから生活の相談まで多岐にわたりました。また、訪問や金銭管理などの生活支援は変わらずに行っていました。

一方、相談支援では、サービス利用計画は国の方針として電話でのモニタリングでも可。との指針が示されましたが、実際には直接あって話す必要のある方などへの訪問も継続し、指針通りにはいかない状況でした。

交流室の閉鎖

国の緊急事態宣言が4月に issuance、その後行政も半数勤務となり、それに準じて委託事業所のセンターも交流室の閉鎖をよぎなくされました。

交流室の閉鎖が続いたことで、利用者の生活状況は見えにくくなり、日常的に交流室を利用していた方には、職員から電話を入れて生活状況の確認を行いました。

睡眠や生活のリズムが崩れている。外出できず身体的にも不調をきたしている。自粛でほとんど外に出ていない。他者と関わらず久々に話した。など様々な影響があったことがわかりました。精神障害者のリハビリテーションにおいて重要視されている他者との交流や生活リズムを整えることが、自粛等の制限を受けることで、心や身体の健康に大きく影響していることを実感しました。

コロナ禍で社会的に自粛が呼びかけられても、日常的な相談や悩みや困ったことを自粛できるわけではありません。今後、さらにコロナの影響が増した場合には、相談も積極的な対面の面接は行いづらくなり、新たな対策を考えざる負えないと思います。安全の確保できる電話やオンライン面接、メールやチャットなどで対応すること。交流室をオンラインミーティング化するなど。新しい生活様式が生活に組み込まれていくように、私たちの相談支援の在り方を変える準備が必要な時が来るかもしれません。コロナの終息を切に願います。

とうたす通信から

あさやけ風の作業所の身体障害の人たちの作業グループ「とうたす班」のメンバーが、年数回発行しているのが「とうたす通信」です。第一号が昭和61年発行ですから、もう34年続いている通信です。その時、その時のみんなの思いが綴られています。

話し言葉

亀井賢太郎

僕は子供の時から言葉が不自由でした。でも今よりは子供時代の方が、スラスラと言葉が出ていました。本当に話すという事は、とても大事な事だと思います。年々徐々に言葉が出にくくなって来ています。特に緊張してしまうと、余計言葉が出にくいと思っています。

最近では歳のせいか、頸椎が変形しているの、しゃべりにくくなって来ているのかもしれない。大事な事を言おうとすると、最初の発音が中々出ないので困っています。一言いうにも大変になって来ています。

僕はタブレットを持っているので、トーキングエイドというアプリを入れて使っています。何か頼む時はアプリを使って頼みます。でもこういう事をやっていたら、ますます言葉が出なくなってくるのではないかと思います。アプリと併用してやっぱり言葉でのコミュニケーションを、取っていかなくてはと思っています。僕にとって話すことは、とても大事なことだと思っているからです。

(No.321 2020年3月20日発行)



7年ぶりに新しいメンバーがとうたす班に入る

柳原 昭三

あさやけ風の作業所が開所してから、ずっと採便管の仕事をしている「あおぞら班」に所属していたKさんがとうたす班に移って来ました。あおぞら班でのKさんの仕事は、毎週空き缶回収に協力してくれた人に渡す「KAZE通信」の原稿書きを主にしていました。

Kさんがとうたす班に移りたいと職員に自分から話したそうです。自分の環境を変えたいということと言えたことは、Kさんにとって大きな自信になったと思います。

とうたす班に移りたい一番の理由としては、あおぞら班がにぎやかで入力に集中できなくなったから、もっと静かなところで仕事に集中したいと考えたのでしょう。

Kさんは、とうたす班の中で一番障がい重い人なので、とうたすの仕事のなかでどんな仕事ができるか模索している最中だと思います。

Kさんのがんばりを期待しています。

(No.322 2020年5月20日発行)

TAKANODAI ART SHOP



藍で染めた布マスク

綿 100% 1000 円

藍は抗菌、消臭効果があるとされています。さらし布の二重構造、さらっとした気持ちのいいマスクです。一枚一枚手染めしているので色や模様の出方がそれぞれ違うのも魅力です。

あさやけの支援者及び地域の皆様へ

第16回わいわいバザール中止のお知らせ

あさやけ設立時から毎年、地域の皆様のご協力を頂き開催してきた「KODAIRA わいわいバザール」(2005年に名称変更、以前はあさやけ大バザール)ですが、今年の開催を中止することになりました。毎年バザールには、品物を提供してくれている方、楽しみ待っている方など多くの皆様に協力を頂いており、中止は大変残念ですが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

8月の廃品回収は、例年どおりお休みとさせていただきます。次回の回収は9月になります。

廃品回収のお知らせ

6月の廃品回収の回収量は16,330kgでした。内訳は新聞11,140kg、雑誌・ダンボール5,190kgです。収益は194,320円でした。

次回は9月19日(土)が回収日です。

雨天の場合は中止とさせていただきます。